

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

高校でソフトテニスの部活に入っています。

先日広島市で開催されたソフトテニス日本リーグを観戦しました。全試合本部審判で実施され、キビキビとして気持ちよかったです。

そのとき気付いたのですが、サービスを判定する副審の方がレシーバー（サービスコート）によって構える位置を変えていました。そのような規則になっているのでしょうか。部活では特に指導を受けなかったのですが…。

Answer

副審のサービス判定時の位置は、見やすい位置に移動して正しい判定をしてください。

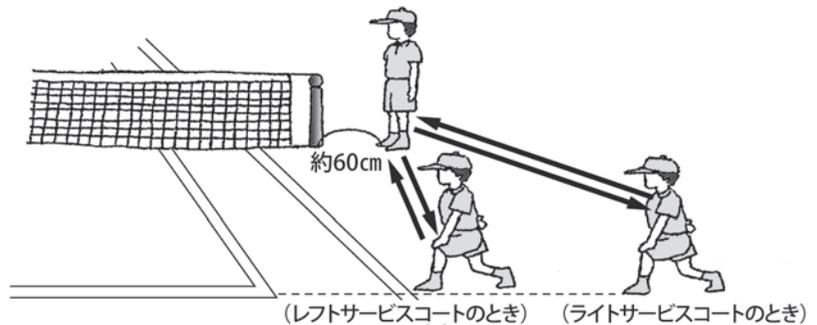
今回は審判の真髓に近いご質問で、一般の観衆の方はプレーヤーについて〇〇さんは素晴らしい動きをしているとか、〇〇さんのストロークは切れがいいとかプレーヤーにまつわる話ですが、審判の立つ位置とか動きやサインの仕方について何か何時もと違っている事に疑問を持ち、関心を持たれたことに変え感服しました。

ところで、サービス判定時の副審の立つ位置は通常サービスラインの延長線上でイン・フォルトの判定をしますが、今回の本部審判員は、自分に近いサービスコートの場合はサービスラインの仮想延長線上でサイドラインからやや遠目で判定を行い、反対側遠い方のサービスコートの場合は、サービスラインの仮想延長線上でサイドラインのより近いところで判定しています。これは、正確な判定をするためにプレーヤーの邪魔にならない程度にサービスコートに近づいて判定しているからです。

また、ある時はサービスラインの仮想延長線上よりネット寄りに移動して構えていたり、ベースライン寄りに移動して構えていることもあります。これは、副審がサービスラインの仮想延長線上に立っている時に、副審に近いプレーヤーが目の前でサービスライン上に立たれると、そのプレーヤーの陰になってそのプレーヤーより遠い方が見えなくなるといいます。そこで遠い方が見える位置は、サービスラインの仮想延長線上からネット寄りか、ベースライン寄りに移動すると遠い方のサービスラインが見える様になるからです。

副審の立つ位置については、講習会や研修会では競技規則に書かれているのは原則について記載してあります。今回のような副審の立つ位置は、その応用と言いますか判定に支障をきたすようであれば、位置を変えて見るところに立って正しい審判をする様にお願いをしています。なお、審判技術DVDやジュニア審判マニュアルにも分かりやすく解説しています。

部活動では、そこまで細やかな指導はなかったようですが今後は日本リーグの審判の動きを参考にして、正しい審判をされるようにしましょう。



副審の立つ位置はレシーバー
によって変わる

【関連規則】

- ・審判規則第9条（アンパイヤーの位置）（2）
- ・ジュニア審判マニュアル「審判規則について」3サイン（P 29）